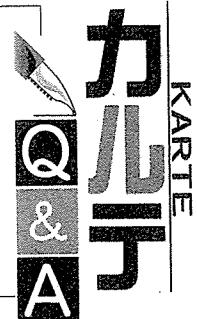


秋は、夏の間の紫外線ダメージやストレスで、抜け毛が増えがちな時季とされる。ただ、中には円形脱毛症を発症している場合もあり、注意が必要だ。誰にでも起こり得る同症の症状や治療法などを専門医に聞いた。



円形脱毛症

共に発症し、幼児から高齢者まで全ての年齢層で起こります。病因は不明ですが、毛の工場である「毛包の最深部」が自己免疫反応の標的となり、リンパ球に攻撃されるために発症するのではないかと考えられています。

円形脱毛症では甲状腺疾

形脱毛症は、突然毛が円形に抜け落ちる皮膚疾患です。多くの場合は頭の一部に発症しますが、小さな脱毛斑が1個だけや複数ある場合、まれに頭髪がほぼ全て脱落したり、眉毛、まつげ、口ひげ、体毛など全身の毛が脱落したりすることもあります。男女

患、尋常性白斑、1型糖尿病、関節リウマチなどの自己免疫疾患を伴うことがあります。ストレス、感染、外傷などが誘因となる場合がありますが、最近では新型コロナウイルスへの感染後に発症。再発したり、症状が悪化したりするケースが知られています。

治療は病型や重症度に応じて選択されます。軽症例はステロイド外用治療を行います。が、難治例では紫外線治療や局所免疫療法、凍結療法、ステロイド局所注射をし、発症初期の急速に進行する例では入院してステロイドパルス療法を用います。近年、難治

性の円形脱毛症に使用できるようになったJAK阻害薬は重症でも効果がありますが、厳重に副作用チェックをしながら使用する必要があります。

予後は個人差があり、軽症例は80%が1年内に治癒するというデータがある一方、重症例では1年以上症状が続くことも少なくありません。皮膚科を受診して適切な診断とをお勧めします。

（兵庫県医師会・堀川達弥 播磨町、うえだ皮フ科クリニック院長）

◇第1、3、4回曜に掲載します。

重症例は1年超、根気よく治療を

脱毛を起こす疾患は、他にも瘢痕性脱毛やトリコチロマニア（抜毛症）、真菌感染症などがあります。円形脱毛症の診断には臨床症状の他に、皮膚科で用いられるダーモスコピ（偏光皮膚拡大鏡）による検査が役立ちます。

予後は個人差があり、軽症例は80%が1年内に治癒するというデータがある一方、